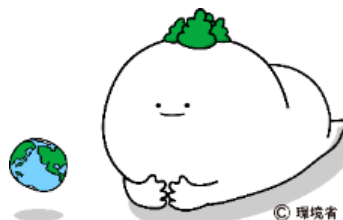


## 令和6年度 J-GBF活動計画（案）



© 環境省



© 環境省

「ネイチャーポジティブ」イメージキャラクター  
**だいだらぽジー**  
DAIDARAPOSIE

ご利用はコチラ→



© 2024

# R6 活動年間スケジュール（案）

	総会、幹事会、企画委員会	各フォーラム・WG
4月		
5月		
6月	<b>幹事会（6／6）</b>	
7月	・R6活動案の検討 ・行動計画FUの依頼 等 ※ 6月中の実施を想定	<b>行動変容WG①（7／18）</b> （R6活動計画、事例共有等）
8月		<b>中小企業向けビジネスフォーラム@オンライン（仮）</b>
9月	<b>総会（9／9）</b> ・行動計画の進捗状況共有 ・ネイチャーポジティブ宣言の発出状況共有 ・各省からの報告（R7概算要求内容等） 等	
10月	<b>（COP16@コロンビア）</b>	
11月		
12月		<b>ビジネスフォーラム&amp;ビジネスマッチングイベント</b>
1月		<b>地域連携フォーラム</b>
2月	<b>企画委員会 R7活動</b>	
3月	<b>支援事業検討委員会 R7活動</b>	<b>行動変容WG②（R6活動成果、事例共有等）</b>

※昨年度3月（今年3月）に企画委員会及び支援事業検討委員会を実施済み（R6活動について検討、議論）。

※各フォーラム等の時期は関係の企画委員との企画検討・調整により確定するものとし、現時点は仮設定。

# R6活動に関する予算（案）

## 【令和6年度 J－GBF 関連予算】

- ・環境省業務：約1000万円

「令和6年度生物多様性の主流化推進に係るJ-GBFの会議運営支援及び広報等業務」予算

- ・寄付金：約500万円（見込み含む）

- ※J-GBFサポーター：積水樹脂様、Jオイルミルズ様、鴻池運輸様、ダイフク様、サカタインクス様

- ※ 昨年度からの繰り越し分を含む

# R6 全体活動（案） ①行動計画の進捗状況について

## 【「行動計画」の進捗状況の依頼について】

- ・「J-GBFネイチャーポジティブ宣言」に基づき、第2回J-GBF総会において「行動計画」が承認、公表された。
- ・「行動計画」は2030年度目標達成に向けて、3年経過後の2026年度に各構成団団体の次の3年間の取組を見直し、行動計画の更新を行う予定。
- ・また、**毎年度進捗状況をFUし、総会にて報告・共有**する。
- ・進捗状況のFUは、「行動計画（進捗表）」を用いて、各構成団体に**進捗状況（2023年度取組結果、自己評価、2024年度取組（予定））**を記入いただき、とりまとめた上で、第3回J-GBF総会にて公表する予定。
- ・**連携事例**についてもご提出いただき、**総会にて報告**する。

### 進捗表イメージ

J-GBFネイチャーポジティブ行動計画(進捗表)

(1) 項目	(2) 進捗状況	(3) 進捗状況	(4) 進捗状況	(5) 進捗状況	(6) 進捗状況	(7) 進捗状況
1. 宣言の目的	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組
2. 宣言の目的	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組
3. 宣言の目的	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組
4. 宣言の目的	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組
5. 宣言の目的	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組
6. 宣言の目的	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組
7. 宣言の目的	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組
8. 宣言の目的	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組
9. 宣言の目的	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組
10. 宣言の目的	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組	宣言の目的を達成するための取組

**進捗状況を記入**

- ・2023年度取組結果
- ・自己評価
- ・2024年度取組（予定）

**自己評価（凡例）**

- ◎ 予定以上に進んだ
- 予定通り進んだ
- △ 予定通り進まなかったが、着手はできた
- × 全くできなかった

## 【スケジュール、公表（総会）までの作業・調整方針】

日程	総会・幹事会・企画委員会	作業・調整方針
3/1	企画委員会	「行動計画（進捗表）（案）」確認
6/6	幹事会	「行動計画（進捗表）（案）」（修正後）の確認 ⇒幹事会でのご意見を踏まえ、様式の見直し等の後、正式依頼 ⇒ <b>7月末頃までに集約整理</b> 、とりまとめ
9/9	J-GBF総会	「行動計画（進捗表）」の報告・公表

## R6全体活動（案）①行動計画の進捗状況（総会における報告について）

### 【総会における「行動計画」の進捗状況の報告について】

- ・第3回J-GBF総会（9／9開催）において、「行動計画（進捗表）」を用いて、行動計画の進捗状況をご報告する予定です。
- ・第3回J-GBF総会資料は公表資料であるため、同日に公表となります。
- ・**連携事例については、総会にてご紹介の機会**を設けさせていただきます。  
特に連携事例については、より多くの事例を集めたく、未実施でも調整中のものを含め、事務局にご報告いただければ幸いです。

### 【報告イメージ（案）】

#### ◆連携事例① ○○○×○○○

- ・令和5年度の○○イベントにおいて、共に出展を行った。

#### ◆連携事例② ○○○×○○○×○○○（予定、詳細調整中）

- ・令和6年度に策定予定の○○について、○○○と○○○と意見交換を実施。
- ・○○策定後は、各関係団体への広報周知を共同で実施予定。

# R6 全体活動（案）②ネイチャーポジティブ宣言呼びかけについて

## 【ポータルや申請フォームの設計と運用状況（報告）】

- 昨年10月よりネイチャーポジティブ宣言の呼びかけを開始。
- 宣言を希望する団体等はネイチャーポジティブ宣言ポータルサイトの登録フォームを使って宣言を登録。
- 登録後1～2週間後に宣言団体および宣言内容を掲載。

（参考：登録手順）

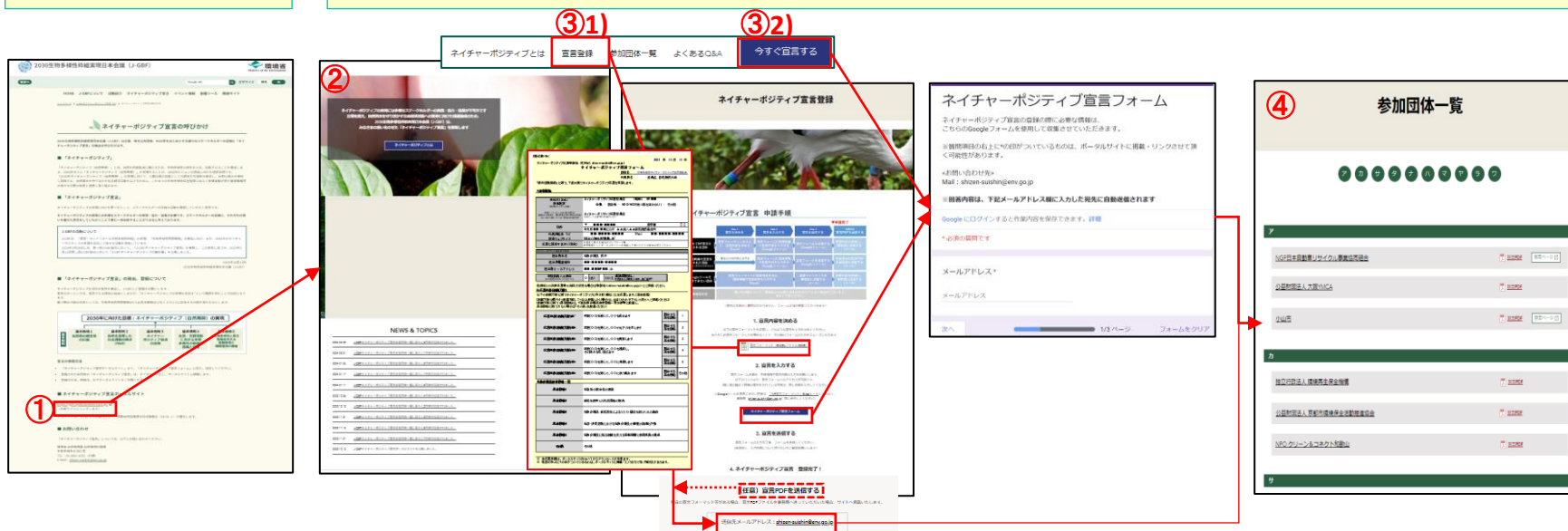
- ①J-GBFウェブサイトの「ネイチャーポジティブ宣言の呼びかけ」ページより②ネイチャーポジティブ宣言ポータルサイトへ遷移。
- ③ポータルサイト右上の1)「宣言登録」、又は2)「今すぐ宣言する」をクリックして登録。「宣言登録」には申請手順の記載があり、手順に従って宣言。

※Excel宣言フォーマット又はgoogleフォームによる登録。独自の宣言フォーマットがある場合は宣言PDF（任意）の登録・掲載も可能。

- ④登録した宣言は、1～2週間後にポータルサイトに掲載される。

### J-GBFWebサイト

### （外部）ネイチャーポジティブ宣言ポータルサイト



## R6 全体活動（案）②ネイチャーポジティブ宣言呼びかけについて

### 【ネイチャーポジティブ宣言発出状況】

5/30時点

構成団体等	宣言数
自治体	9
企業	19
NGO・NPO等	18
計	46
宣言への賛同を表明した企業・団体	333
延べ団体数	379

### ネイチャーポジティブ宣言ポータルサイト

#### 参加団体一覧

ア カ サ タ ナ ハ マ ヤ ラ ワ

2024年5月9日時点

参加企業・団体数：41団体

宣言への賛同を表明した企業・団体数：333団体

合計：374団体

ア

厚木市

宣言PDE

宣言ページ

綾町

宣言PDE

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合

宣言PDE

宣言ページ

公益財団法人 大坂YMCA

宣言PDE

岡崎市

宣言PDE

宣言ページ

### 【宣言拡大の工夫】

- ・環境省メルマガ（30by30アライアンス、森里川海等）、J-GBF構成団体へのメール等による周知
- ・J-GBF主催・共催の会議やJ-GBF構成団体が実施するイベント等での呼びかけ
- ・環境省では、「ネイチャーポジティブ経済移行戦略」における指標として活用  
（「ネイチャーポジティブ宣言の宣言・賛同団体数を2030年時点で1,000団体とする」ことを記載）
- ・広報ツール（宣言団体のみが使用できる「ネイチャーポジティブ宣言」ロゴマーク）を作成（詳細は後述）



# R6 全体活動（案） ②ネイチャーポジティブ宣言呼びかけについて 一構成団体による宣言拡大に向けた取組事例一

## 名古屋市 なごやネイチャーポジティブ パートナー制度における 宣言登録支援



市とともにネイチャーポジティブの実現を目指す事業者・団体等を認定し、支援する制度において、パートナー団体のJ-GBFネイチャーポジティブ宣言への代理登録等を実施。

※プレスリリース前、取扱注意。

## 一般社団法人 日本経済団体連合会 (経団連自然保護協議会) 経団連生物多様性宣言・ 行動指針への賛同企業の募集



・経団連生物多様性宣言イニシアチブにおいては、「経団連生物多様性宣言・行動指針」に賛同する企業・団体を募集。

・2024年3月29日時点で333社・団体が賛同を表明。

## 日本自然保護協会（NACS-J） 市町村・企業向け 支援プログラムの要件への活用



「ネイチャーポジティブ自治体認証制度」において、認証基準の1つに「首長がネイチャーポジティブ宣言を行っている」ことを設定。



## R6 全体活動（案）②ネイチャーポジティブ宣言呼びかけについて ーネイチャーポジティブ宣言のメリットー

### 【ネイチャーポジティブ宣言をするメリットについて】

以下のようなメリットが考えられる/聞こえている。

- ・ 企業や自治体の取組を検討するにあたっての方針整理に活用いただける
- ・ 部署を超えた取組に関する庁内調整がスムーズになる
- ・ ネイチャーポジティブ認定制度（NACS-J）の要件を満たすことができる（前述）
- ・ 「ネイチャーポジティブ宣言」発出団体限定ロゴマーク（※）の使用が可能になる

等

### （今後の案）

- ・ COP16における環境省展示ブースにおいて、企業紹介カードが置けるようにする 等

★その他、構成団体の活動においても活用に関するご検討を是非お願いいたします。

### ※「ネイチャーポジティブ宣言」発出団体限定ロゴマーク（6/6プレスリリース）

- ・ ネイチャーポジティブ宣言を発出、登録していただいた企業、団体等のみが使用できるロゴマークを作成。
- ・ ネイチャーポジティブのイメージキャラクター「だいだらポジー」を活用したデザイン。



# R6全体活動（案） ④寄付金の使途に関する報告

## 令和6年度 寄附金使途（報告）

### （収入）

昨年度（R5）繰り越し	1,272,100円
本年度（R6）受入（見込み含む）	3,700,000円
<b>計</b>	<b><u>4,972,100円</u></b>

### （支出）

○ネイチャーポジティブ宣言支援事業	約600,000円
・ネイチャーポジティブ宣言の収集およびポータルサイトの企画運営	
・MY行動宣言（オンライン）サイトの運営	
○ユース支援（国外派遣等）	約2,300,000円
・COP16@コロンビア、および自治体国際会議等へのユース派遣	
・横浜国際ユースサミット	
○COP16サイドイベント・ブース展示等	約400,000円
・COP16サイドイベント及び環境省ブース展示の支援等	
○検討会運営費、予備費等	約900,000円
<b>計</b>	<b><u>約4,200,000円</u></b>

### （翌年繰越）

**約700,000円**

※運用の中で各項目について増減等の変更の可能性あり

# R6 ビジネスフォーラム（案）

**ビジネスフォーラム** 生物多様性に関するビジネス分野（企業等）への情報提供や関心向上に向けた**経済3団体**を中心とするフォーラム

## ● 第4回ビジネスフォーラムの概要（シンポジウム+マッチング）

○趣旨：ネイチャーポジティブ実現のための社会経済の在り方をビジネスの立場から議論し、自然資本を活用したビジネス創出や、レジリエンス強化のための支援を行う。

○日時：12月3日（火）午後

○場所：経団連会館

○構成（予定）：第一部 シンポジウム、第二部 ビジネスマッチング

※第二部はネイチャーポジティブに資する技術やソリューションを有するスタートアップ企業

・中小企業とN G Oがブースを設置し、大企業に連携を呼びかけることを想定

## ● 企画委員の皆様からいただいたアイデア

	経団連自然保護協議会	日本商工会議所	経済同友会
テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・COP16前後のタイミングで「COP16の議論がどうビジネスに影響するか」等の周知</li> <li>・中小企業やサプライチェーンに携わっている企業等を対象にした情報開示の勉強会</li> <li>・生物多様性民間参画ガイドラインの更なる普及、啓発（別途、メールでいただいたご意見）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方にも裾野を広げ、中小企業の参加を増やす（参加意欲を高める）工夫が必要</li> <li>ーマッチングイベントの中小企業への声かけ</li> <li>ー中小に絞らず、地方の企業が取り組んでいる活動へのフォーカス</li> <li>ー交流会（地方での生物多様性に関する取組を相互に知る機会）の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営層の理解が難しいところ。フォーラムで拾えると良い</li> <li>・意識が高い方々の話だけでは収益率を上げることにつなげる議論が見えていない</li> <li>・C S Rでなく本業にどう組み込むか、ビジネスの核心に刺さるテーマが増えていくとよい</li> </ul>
事例紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然共生サイトの支援マッチングの好事例の紹介</li> <li>・行動変容WGにおける消費者行動の調査結果等のデータの企業への共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然共生サイトについては地方企業が絡んでいる事例も多い</li> </ul>	

⇒R6は、夏～秋頃に中小企業向けのイベント（オンライン）を開催することも検討。  
（引き続き、日本商工会議所等の企画委員の皆様と相談）

# R6 ビジネスフォーラム（案）

## ● 参考）第3回ビジネスフォーラム（令和5年12月5日）

### 第一部 シンポジウム

「基調講演」（東京都市大学特別教授 涌井氏）

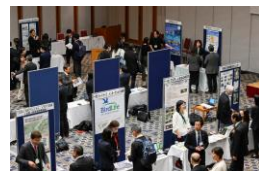
「パネルディスカッション」（モデレーター 日経ESGシニアエディター 東北大学大学院教授 藤田氏）

「経団連生物多様性宣言の改定、企業の生物多様性への取組みに関するアンケート結果、  
経団連自然保護基金について 他」（経団連自然保護協会事務局長 長谷川氏）

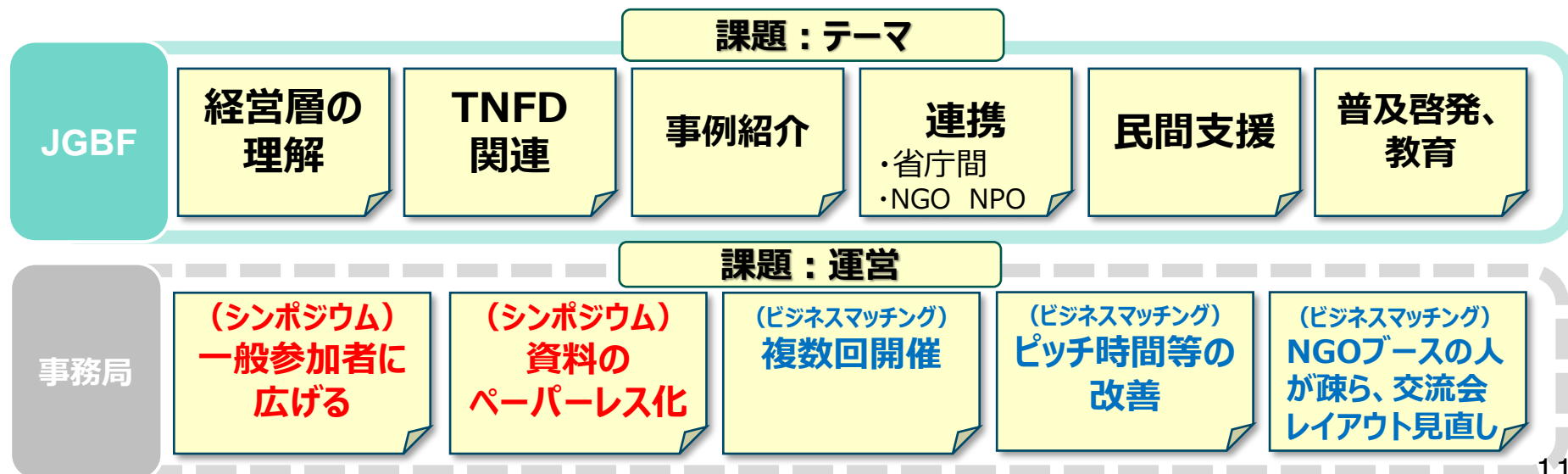
「J-GBFについて」（環境省自然環境局生物多様性主流化室長 浜島氏）

「生物多様性保全に向けた取組みのご紹介」（積水樹脂代表取締役社長 CEO 馬場氏）

### 第二部 生物多様性に関するビジネスマッチング 企業とNGO等の交流会



## 12/5J-GBF第3回ビジネスフォーラム参加者からのアンケート結果の課題まとめ



# R6 地域連携フォーラム（案）

**地域連携フォーラム** 生物多様性自治体ネットワーク、イクレイ日本と連携し、地域における生物多様性への知見共有や具体的取組を促すフォーラム

## 第4回地域連携フォーラムの概要（案）

- テーマ：食と生物多様性
  - 日時：未定（1月頃の実施を想定）
  - 場所：オンライン開催を前提としつつ、自治体NWの勉強会と連携して開催する等、対面開催の可能性についても検討。
  - 構成：事例共有（40分） パネルディスカッション（40分） 質疑応答（10分）
- ・本フォーラムの訴求対象は、引き続き地域連携を担う行政職員とする。
  - ・一方で、過去のフォーラムの参加者は過半数がビジネスセクターの方である点も踏まえ、地域連携の観点から企業が自治体に対して何を期待しているのか等を、パネルディスカッションや質疑応答で拾いながら相互理解に繋げる。
  - ・また、J-GBFの特性を活かし、農水省、消費者庁等の関係省庁や生協様、JA全農様などサプライチェーンも巻き込みながら食を切り口に自治体の取組について議論することを想定。

## （参考）第3回地域連携フォーラム （令和5年10月30日）

【テーマ】ネイチャーポジティブの実現に向けて、地域における施策を推進していくための地方公共団体の庁内連携

【内容】国土交通省、農林水産省、環境省、千葉県佐倉市、栃木県小山市、宮城県仙台市からの事例発表とパネルディスカッションを行った。

### ■参加者アンケート結果（抜粋）

- ・参加者の過半数がビジネス層
- ・関係省庁発表に関しては9割、自治体からの発表については10割が参考になったと回答
- ・パネルディスカッションでは事例発表についてより議論が深まったと好評

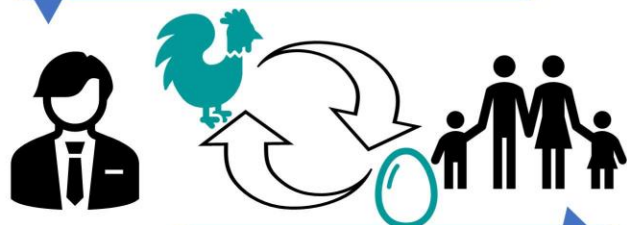


# 行動変容WGについて —生物多様性の主流化に関する当面の目標と戦略—



## 変えたい現状

- ・ニーズが無いから
- ・高く買ってくれないから
- ・どうせ分かってももらえないから



- ・売ってないから
- ・あっても高いから
- ・何が良いか分からないから

それって本当ですか？

## 環境省での主な事業内容

### 企業の行動変容支援

- ・ NPE戦略策定
- ・ 情報開示支援
- ・ 技術実証
- ・ ビジネスマッチング

### 国内の緑への価値づけ

- ・ 保全活動認定の法制化
- ・ 支援証明書構築
- ・ 自然資本の経済価値評価

## 行動変容WGでの活動内容

### 企業が使えるデータの提供

#### 環境省事業例

- ・ (R4) 支払意思額調査
- ・ (R5) ECサイト購買行動実証
- ・ (R5) 消費行動ロジックモデル構築事業
- ・ (R6) R5ロジックモデル構築事業を活用したフィールド実証

#### WG委員研究事例

- ・ 自然観察行為へのモチベーション付けに関する調査  
(佐々木委員、久保委員、藤木委員)

※環境省事業/WG委員の個人研究として実施し、行動変容WGに話題提供されるものも含む。

平行して

- ・ 実践例のナラティブな共有  
(他分野との組み合わせ)
- ・ 過去の研究事例の整理

鶏からでも  
卵からでも  
アプローチできる！

メーカー、小売店、広告  
代理店、教育関連企業etc.

WGでtips整理・共有

実践結果をWGに  
フィードバック

## J-GBF構成員、NP宣言団体の皆様をお願いしたいこと

個々のノウハウ・ネット  
ワークを生かした、個人/  
個別企業等への働きかけ



“あなた”は、  
どう思いますか？

“やってみる”仲間づくり



NPのボタン、  
一緒に押してみない？

だいだらポチっと



## R6 行動変容WG 実施内容（案）

**行動変容WG** マルチステークホルダーによる、ナッジやポイント制度等を活用した、市民や企業等の行動変容を促す取組を議論・検討する会議体  
⇒企業目線での消費者・生活者行動変容tips（みんなが活用できる素材PPT等）を作成し、行動変容WG参加者、J-GBF構成団体、企業等に広く活用してもらえるよう、ウェブサイトにおいて公開・発信する。

### □令和6年度 取組内容(案)

#### ◆事業者の行動変容を促すための消費者の行動変容調査

・認証商品購入等、消費者の行動変容がネイチャーポジティブに至る機序を示したロジックモデル作成業務(R5実施)により実際の店舗にて介入策を実施し、実証実験を行う。

#### ◆生物多様性に係る行動変容に関する取組事例の共有

・生物多様性に資する取組を行っている(行動を促している)活動の事例を共有・研究。

⇒WGでの事例発表の継続。

※今年度整理する国の施策を整理した表(前スライド)も参考に民間や自治体の取組事例をピックアップ。

【事例案】グリーンラッピング(そごう西武)ほか ※企業経由でない事例についても歓迎

#### ◆ナッジ等を活用した調査事業(環境省担当課と調整中)

(参考)

・就職活動×生物多様性 (R5)

・30by30ロゴマークを活用した支払い意思額の調査 (R4)



# (参考) R5 実施内容 (R5行動変容WGにて報告)

## ○因果分析を用いた行動変容手法の分析

生物多様性の保全に資する商品の消費選択に与える要素を特定し、その因果関係を分析し、今後の介入実験の手法を検討

## ○ECサイトと連携した生物多様性に配慮した消費行動の調査

ECサイトと連携し、昨年度の販売データとも比較検証しながら、「生物多様性に配慮した商品」(ECサイトにて選定)の販売数・売り上げ傾向及び購入者層の分析。また、該当商品における購入目的等を調査し、今後需要が期待される環境配慮型の商品の提案

## ○小売店等と連携した情報発信

森里川海アンバサダー※が、小売店に勤務する従業員等を対象にしたワークショップを実施し、環境に配慮した取組及びこれからのサービス等を考え、意識の変容を調査。一定期間、従業員発案手法にて情報発信するほか、来店者へ環境意識に対するアンケートを実施し、小売店及び従業員から消費者へ行動変容を促すための情報収集を行う。

## ○学生、若年層を対象としたwebアンケート実施

就職活動における企業選択等において、生物多様性・環境等への配慮・貢献をしている企業への志向度を調査

## ○行動変容に関する過去の知見整理、事例集の作成

Behavior Change For Natureを中心に、行動変容に関する研究・実践事例を整理

※森里川海アンバサダーについて

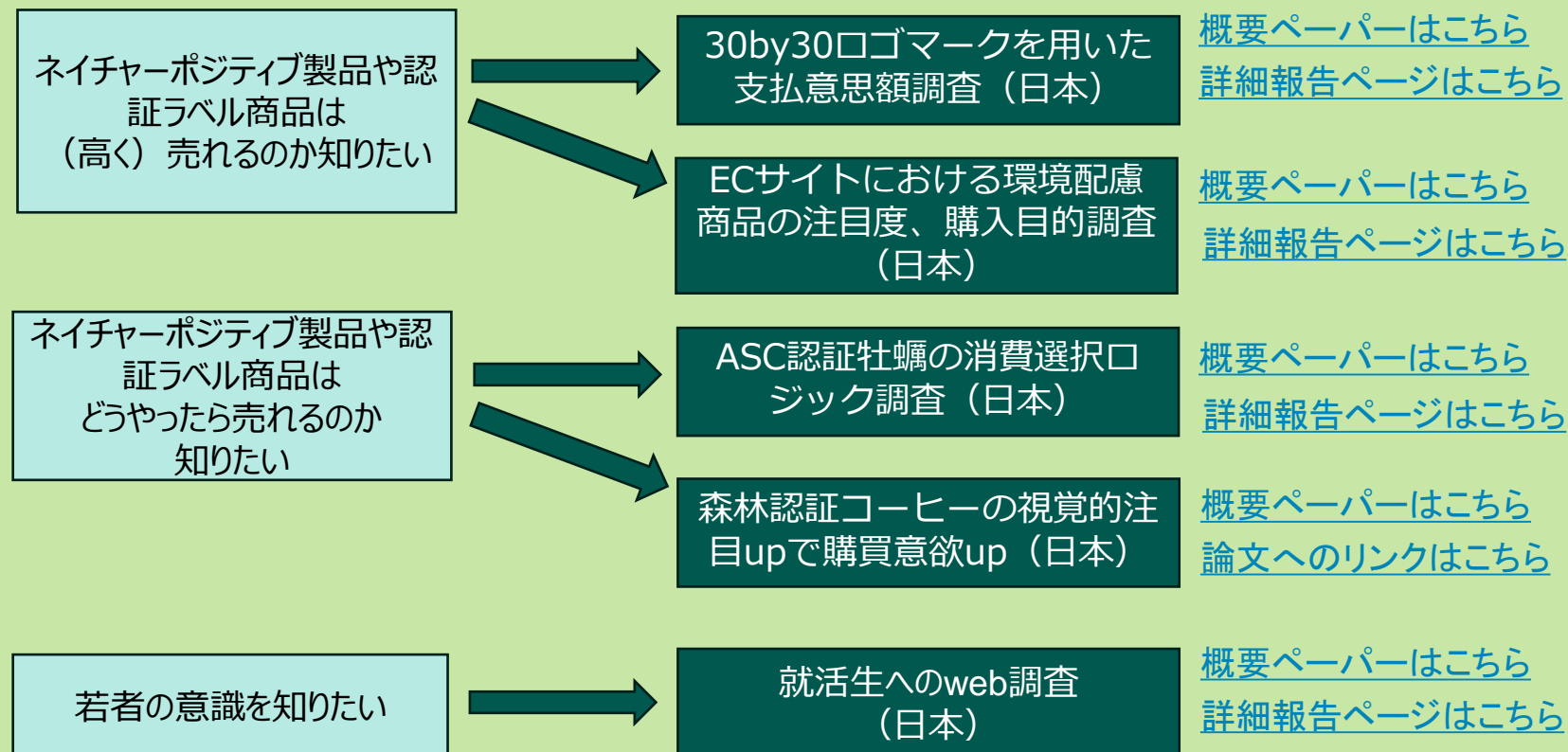
「つなげよう、支えよう、森里川海プロジェクト」(2014年12月に始動。自治体や民間企業など約720団体が賛同。)をサポートしていただくため、各方面で活躍し、高い情報発信力を持つ方を「森里川海アンバサダー」として任命しています。(現在31名)

# 行動変容関連tips ウェブサイト作成イメージ

- ネイチャーポジティブ経済の実現に向け、**企業目線での消費者・生活者行動変容tipsを中心に、研究成果を一覧性を以てアクセスできるよう整理する**。各研究事例について、概要を整理して掲載する。
- 研究者等からの情報提供・掲載依頼も歓迎する（論文掲載サイトへのリンク等）。

## 《掲載イメージ》

### 企業目線での消費者・生活者行動変容tips一覧



⋮

このほかにも、特に企業目線での消費者・生活者行動変容に役立つ研究成果で紹介可能なものをお持ちでしたら、情報をお寄せください。 [shizen-suishin@env.go.jp](mailto:shizen-suishin@env.go.jp)